



第10回 四万十川桜マラソン大会

4月1日、第10回四万十川桜マラソン大会を開催しました。

今年は前日イベントから大会終了まで天気も良好で、四万十川沿いの42.195kmの「走ル旅」を1,353名のランナーがスタートをし、1,177名が無事に完走しました。

今大会は例年になく夏日が続き、桜も全国で一番早い開花宣言となった高知県でしたが、晴れも続いたおかげで桜舞い散る中での記念大会となりました。前夜祭含め、参加者には四万十町のPRと町民の温かいおもてなしについつい笑顔が溢れる大会となりました。ランナーの皆さま本当に疲れ様でした。

【結果報告】

男子総合順位

順位	氏名	県名等	タイム
1	中島 健一	高知市	2:35:28
2	池内 雅裕	東京都	2:39:39
3	植田 和久	土佐市	2:41:25

女子総合順位

順位	氏名	県名等	タイム
1	和氣 千夏	四万十市	3:21:48
2	十河 清世	高知市	3:25:05
3	高橋 彩	高知市	3:25:35

実行委員長お礼

ボランティアの皆さまや沿道で声援を送っていただいた地域の皆さま、ご協力ありがとうございました。

おかげ様で、無事 42.195 kmの「走ル旅」を終えることができました。

この大会は、雄大な四万十川と沈下橋、桜並木、新緑が相まって全国に誇るロケーションの大会です。今後とも大会の発展のため、ご支援・ご協力をお願いします。



実行委員長
谷口 和史

■民泊者数…20人 ■前夜祭来場者数…166名 ■ランニングクリニック受講者数…50名

旭日単光章



まつした よしお
松下 吉男氏 (小野・88歳)

受章おめでとうございます！

3月26日、高知県庁で岩城副知事より高齢者叙勲伝達式が行われました。受章者は、小野にお住いの松下吉男さんです。

松下氏は、昭和52年から平成5年までの4期16年間の長きにわたり、旧十和村議会議員として在職し、平成2年からは旧十和村議会議長を歴任され、卓抜した識見と指導力、豊富な経験と優れた政治手腕をもって住民の代表として誠心誠意職務を全うされました。

季節の風景 5月

燕

冬の間、暖かい東南アジアの島々やオーストラリア北部で過ごしたツバメは、海を何千キロも超えて日本に帰ってきます。海面すれすれを集団でなく、一羽ずつ飛んでくるのです。



古くから、水稻栽培において穀物を食べず害虫を食べてくれる益鳥として扱われ、ツバメを殺したり巣やヒナに悪戯をするのを慣習的に禁じて、農村部を中心に大切にされてきました。民家の軒先などが住む環境と同じ場所で繁殖する傾向があり、これは、天敵であるカラスなどが近寄りにくいからだと考えられています。ツバメは年に二、三度4〜7月に繁殖し、一日に一個ずつ、3〜7個の卵を産みます。そして、ふ化してから巣立つまでに3週間、巣立ってから2週間ほどで自分でエサをとれるようになります。生まれたヒナは他のヒナたちと一緒にしばらくは町中で暮らしますが、親鳥はもう一度産卵し子育てをします。

つばめつばめ泥が好きなる燕かな

細見綾子

今月の



「機能するネットワークづくり」に 関わっていききたい！



▲「じゅうく。」スタッフたちと打合せ

町営塾「じゅうく。」スタッフの小林さんは、神奈川県横浜市の出身。地元の高校を経て、早稲田大学教育学部に進学。卒業後は、東京大学の大学院（教育学研究科）へ。

大学の教育学部に進んだのも、大学院で教育学を研究したのも、教員を目指したかったのではなく、教員や、学校という組織の実情を学問的に研究してみたかったから。高校時代、授業が面白くなく、悩んでいた小林さんは、当時の部活の顧問の教師にその思いをぶつ

の後、イノベーター養成講座などを企画する会社で転職。二つの職を経験する中で、小林さんは自分の力の限界を感じます。関々とする日々の中で「じゅうく。」の取り組みを知り、その入り口を担うファウンディングベースの面接を受けたのです。自分自身のスキルも上げていきたいと考える小林さんにとって、派遣後のフォローアップもあるこの仕事に「ピンときた」のだそうです。

四万十町に来て一年半が過ぎました。「まだまだ学校の中に入つてはいけてません」と言う小林さんですが「自分がどの領域で力を発揮できるかを見極めながら、人と人が交わって、ボトムアップで事を興すための「機能するネットワーク」作りに関わっていききたい」と考えています。



こばやし あきお
小林 玲央さん
(北琴平町)